

| 授業科目 | *地域活性化演習 | | | | | 実務家教員担当科目 | - | | | | |
|-------------------------|---|------|--|------|---|-----------|----|-----|---|-------------|----------|
| 単位 | 1. | 履修 | 必修 | 開講年次 | 2 | 開講時期 | 後期 | | | | |
| 担当教員 | 池口 功晃 | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>地域活性化という言葉は最近流行の言葉ですが、その意義は多岐にわたります。本授業においては地域活性化の重要な担い手である企業等を中心とした生産主体に着目し、企業と学生の共同作業を通じて一定の成果を追求することを目的とします。具体的な授業の流れとしては、さまざまな企業とのコラボを通じて一定の成果を上げることが予定しています（中間発表、成果発表会実施）。</p> <p>ただし、企業等の選定～共同作業の提案～成果発表に至る過程でアクティブラーニングの形式をとるため、随時企業を訪問し共同作業をおこなうことを予定しています。なお、企業の選定にあたっては事前に共同作業の打診をおこないます。詳細については授業で説明します。</p> <p>企業と学生のコラボの具体的なイメージとしては次のようなものを想定しています。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 菓子メーカーと西南女学院大学学生のコラボによる新スイーツの開発 航空会社と西南女学院大学学生のコラボによる機内誌の開発 自治体と西南女学院大学学生のコラボによる観光マップの作成、等 温泉観光地と西南女学院大学学生のコラボによる集客戦略の策定 | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 授業方法 | 本授業は PBL(課題解決型学習)、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。 | | | | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | | | | | | | | | |
| 標準的レベル | <p>1. 前期で履修した「ビジネス演習」の知識を通じて企業へ共同作業を提案し、一定の成果物を生み出す。</p> <p>2. アイデアの発案、共同作業を通じて商品・サービス開発の過程を学ぶことで地域活性化について自らの言葉で説明できる。</p> | | | | | | | | | | |
| 理想的レベル | 企業等との商品・サービス開発を学ぶ過程で、企業を通じた地域活性化への具体的な提案ができる。 | | | | | | | | | | |
| 評価方法・評価割合 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(数値) | | | | | 備考 | | | | | |
| 試験 | | | | | | | | | | | |
| 小テスト | | | | | | | | | | | |
| レポート | 50% | | | | | | | | | | |
| 発表(口頭、プレゼンテーション) | 50% | | | | | | | | | | |
| レポート外の提出物 | | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | | |
| カリキュラムマップ(該当 DP)・ナンバリング | | | | | | | | | | | |
| DP1 | ○ | DP2 | ○ | DP3 | - | DP4 | ○ | DP5 | ○ | ナンバリング | T022103J |
| 学習課題(予習・復習) | | | | | | | | | | 1回の学習目安(時間) | |
| 該当部分の復習 | | | | | | | | | | 1 | |

| 授業計画 | |
|-----------------------|--|
| 第1回 | 授業ガイダンス：地域活性化とは何か |
| 第2回 | 企業の選定 |
| 第3回 | 企業への打診と打ち合わせ作業 |
| 第4回 | 企業との共同作業（課題の発見） |
| 第5回 | 企業との共同作業（課題解決へ向けた提案） |
| 第6回 | 企業との共同作業（目的達成、成果の確認） |
| 第7回 | 第1回中間発表（Aグループ） |
| 第8回 | 第1回中間発表（Bグループ） |
| 第9回 | 第1回中間発表（Cグループ） |
| 第10回 | 第2回中間発表（Aグループ） |
| 第11回 | 第2回中間発表（Bグループ） |
| 第12回 | 第2回中間発表（Cグループ） |
| 第13回 | 成果発表会（Aグループ） |
| 第14回 | 成果発表会（Bグループ） |
| 第15回 | 成果発表会（Cグループ） |
| テキスト | 随時、授業レジュメを配付する。 |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 高橋徳行編著（2017）『ケーススタディ 地域活性化の理論と現実』 同友館 小林勇治・波形克彦編著（2015）『「地方創生でまちは活性化する」』 同友館 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 学生によるプレゼンテーションに対しては、各発表につきコメントを述べることでフィードバックをおこなう。 |
| 学生へのメッセージ・コメント | <ul style="list-style-type: none"> ・「ビジネス演習」（2年前期）を履修しておくことが望ましい。 ・企業と学生がコラボして新しい商品や価値を生み出す授業を予定しています。是非、積極的に授業に参加するようにしてください。 |